

経営比較分析表（令和元年度決算）

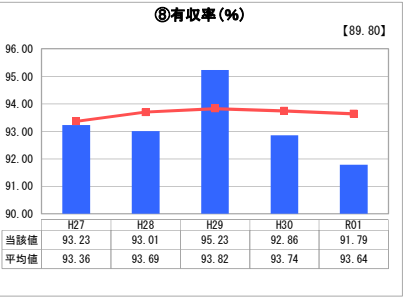
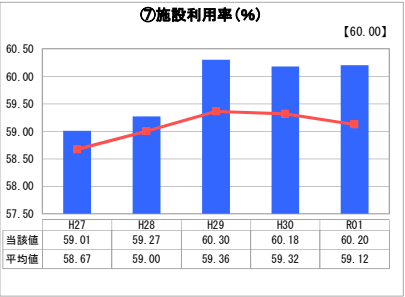
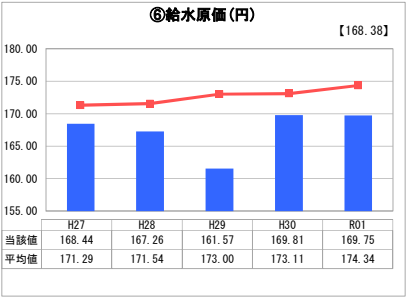
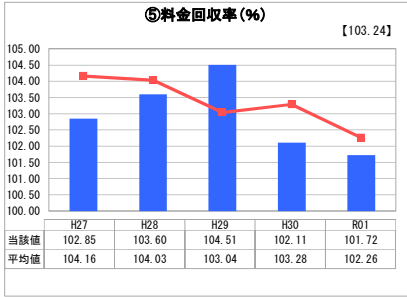
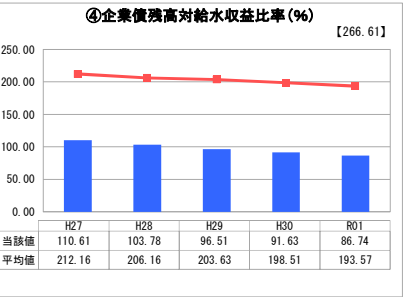
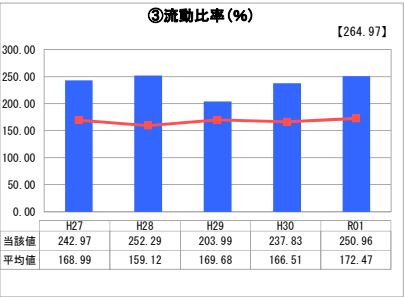
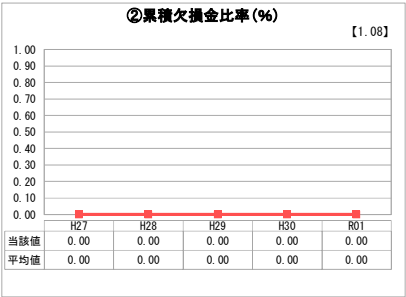
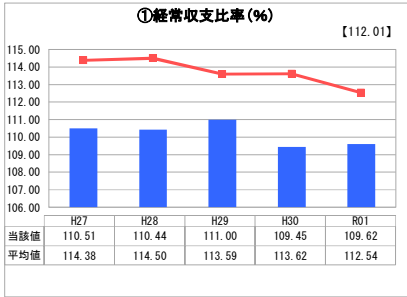
兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	86.77	99.85	2,563	

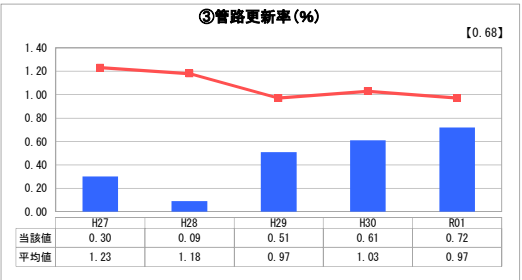
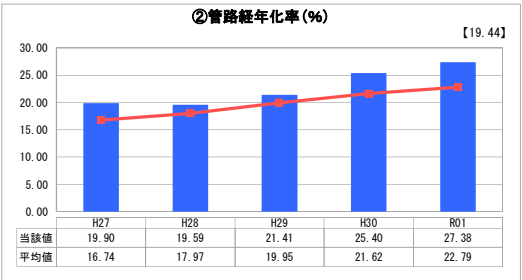
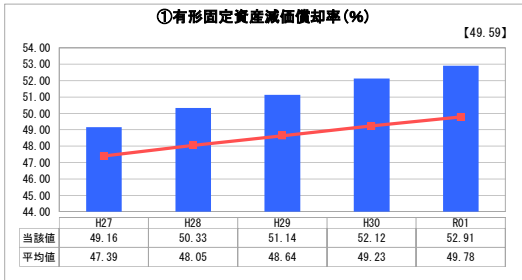
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,533,588	557.01	2,753.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,516,525	287.34	5,277.81

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び⑤料金回収率はそれぞれ100%を超えており、また、⑥給水原価は類似団体との比較では、低い数値となっているが、給水収益が減少傾向にあることや今後、更新投資の増加により減価償却費の増が見込まれることから、更なる費用の削減に努める必要がある。

④企業債残高対給水収益比率は今後も他の財源を活用し、当面の間は企業債の借入れを行う予定がないことから、引き続き減少する見込みである。

⑦施設利用率は類似団体との比較で高い値となっているが、将来の給水人口の減少を踏まえ、計画的な更新に加え、ダウンサイジング等を進めることにより、更なる向上を図っていく。

②累積欠損金比率は0%であり、③流動比率も200%を超えていることから、資金面においても、支払能力があり、現状は健全な企業経営が行えていると考える。

2. 老朽化の状況について

類似団体との比較では、①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率は高くなっている。これは施設の延命化・長寿命化を図り、投資の抑制を行ってきたためである。

③管路更新率について、配水管の更新ベースアップの取り組みの結果、上昇傾向にある。一方目標値である年間40km(0.8%)の更新にはいっておらず、引き続き、目標値達成に取り組み、配水管の更新を着実に進めていく。

全体総括

給水収益の減少や経年化施設の大量更新など厳しい状況が見込まれるが、維持管理費の削減など、可能な限りの経営改善等を進めるとともに、更新投資の平準化に努めることで、経営基盤の強化を図り、現行料金水準での事業運営に努める。

経営比較分析表／団体全体（令和元年度決算）

兵庫県 神戸市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計) (m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	106,000	中規模	1	48,697
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	69.1	71	90,216	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

③流動比率について、100%を超えているため支払能力はあるが、前年度比較で減少している。これは更新投資の増加による流動負債の増加が原因であると考えられる。

⑤料金回収率は100%を超えており、類似団体の平均値と比較しても高い値となっている。

④企業債残高対給水収益比率は、令和元年度に更新投資の増加に対応するため企業債を発行しており値が上昇している。令和2年度以降も更新投資の資金が必要であることから企業債残高は増加する見込みである。

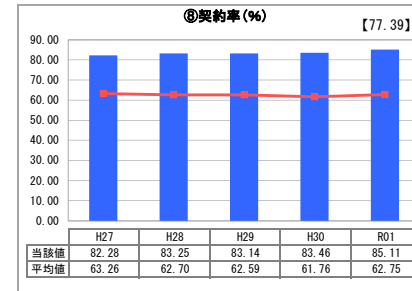
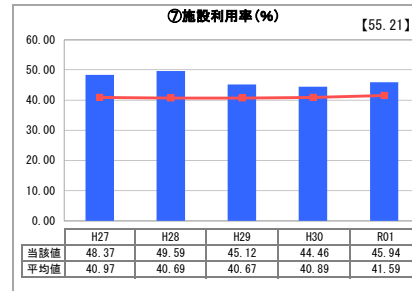
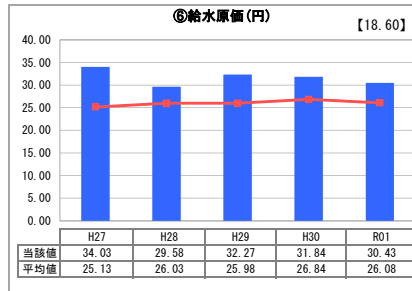
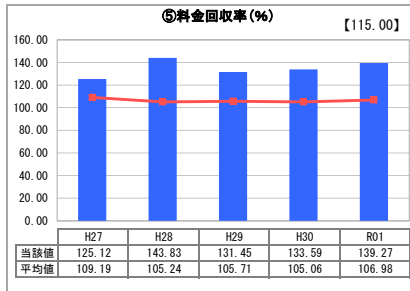
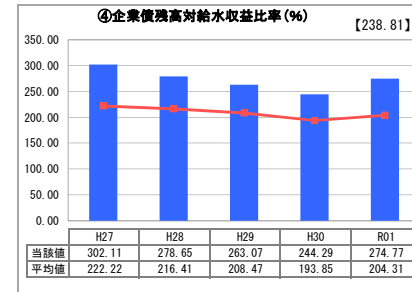
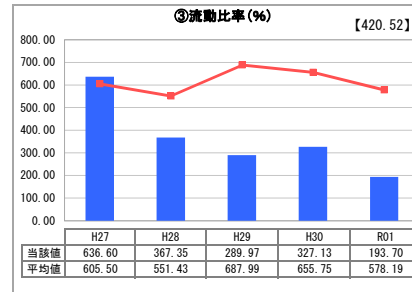
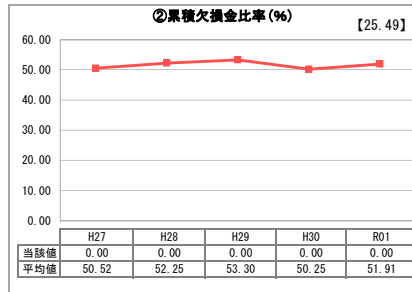
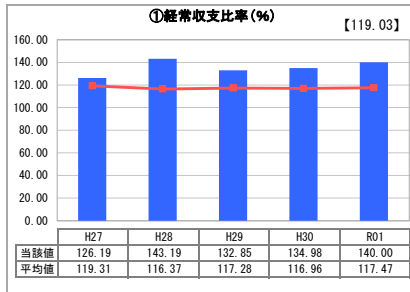
②累積欠損金は0%となっているが、類似団体との比較では、①経常収支比率、⑦施設利用率、⑧契約率ともに高く、前年度よりも上昇していることから、事業運営は安定していると考えている。引き続き、経営基盤の強化に努める。

2. 老朽化の状況について

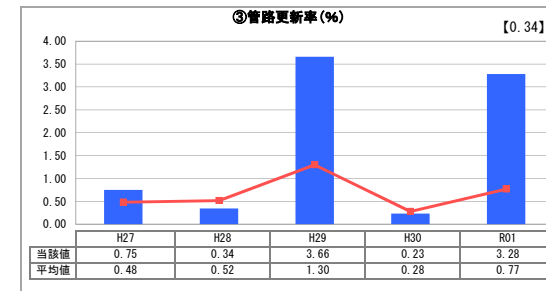
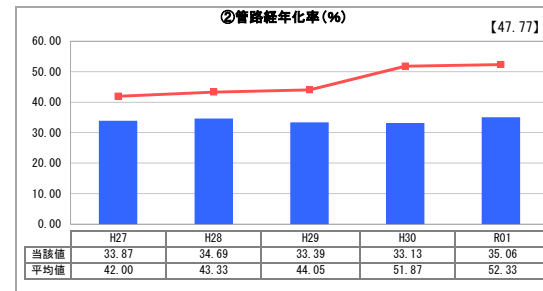
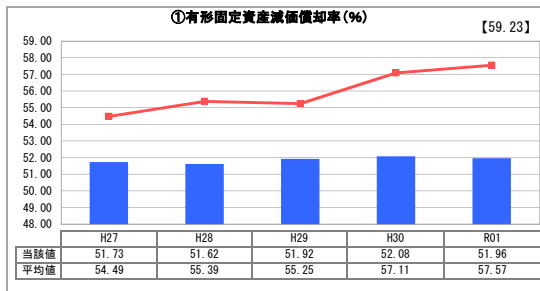
類似団体との比較では、①有形固定資産減価償却率、②管路経年率は低くなっている。これは、計画的な更新に努めてきたことから法定耐用年数を上回る資産が少ないためである。

また、③管路更新率については、平成24年度から「第3次改築」として、配水管の更新に取り組んでおり、引き続き、計画的な更新に努めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

水需要の合理化や経年施設の更新を見据えつつ、引き続き、持続的・効率的な安定給水と経営基盤の強化に努めていく。